

鈴鹿市立郡山小学校
令和5年度第4回学校運営協議会（令和5年度学校保健委員会）報告

○日時 令和5年12月7日（木）19：00～20：20

○場所 郡山小学校コンピュータ室

1 あいさつ

委員長および学校長より挨拶

2 協議内容

（1）学校保健について・・・学校保健資料をもとに養護教諭より説明

○学校保健の取組について

○定期健診結果より

- ・身体測定結果・栄養状態・校医健診等概ね問題は見られない。肥満傾向の児童について今後も経過観察を行う。う歯は昨年度より微増だが処置完了者の割合増加。
- ・視力測定の結果から、視力低下に低年齢化の傾向がみられる。コロナ禍でメディア視聴が増えたことも要因。中学校区で引き続き「ノーメディア」の取組を行いたい。

○保健室来室状況

- ・月別では10月の来室が多い。インフルエンザのり患者増が要因の一つ。
- ・病院受診したケガは前年同期よりやや減少。けがのリスクを伴う活動については、今後も適切な指導や注意喚起を行っていきたい。

○熱中症対策

- ・こまめな水分補給や防止の着用、「暑さ指数」測定等により、適切な予防対策を行う。

《質疑応答》

- ・児童のけがの状況について、発生場所等の傾向から改善につなげることが可能。
- ・熱中症対策としての水分補給について
⇒スポーツドリンクについての説明（メリット・デメリット等）や水筒を忘れてしまった児童への対応等、今後も検討・対応を行いたい。
- ・運動会の開催時期について
⇒他の学校行事との兼ね合いも踏まえ、適切な時期について検討したい。

3 学校歯科医先生からの講演 「歯と口の外傷とその対応について」

- ・体のパーツ全体に占める歯（口腔）の割合は小さいが、ケガの部位別割合を見ると歯（口腔）は全体の2割ほどを占めている。
- ・校種別でみると、中・高より保・幼や小で歯（口腔）のケガの割合が高い傾向が分かる。
- ・歯（口腔）の外傷について、要因を見ると、保・幼や小では転倒等が多いが、中・高になると運動中等が多くなる。また小・中・高では休み時間や課外活動（クラブ等）中のケガが授業中よりも多い。

- ・外傷の内容でみると、保・幼や小では、脱臼（歯がグラグラになる等）が多いが中・高では破折等が多くなる。乳歯の時期は歯自体が小さく、折れるよりもグラグラになったり抜けてしまったりするということが考えられる。
- ・永久歯に生え変わる前の乳歯のケガでも、今後影響が出る（歯並びが悪くなる等）こともあるので、乳歯・永久歯にかかわらず、外傷があった場合歯科医への受診をお勧めする。
- ・永久歯が抜けた場合、牛乳につける・口の中（唇と歯茎の間）に含む等して速やかに歯科医へ行くといよい。水洗いは歯根膜が死んでしまう危険があるのであまりしない方がよい。
- ・フローチャートを参考に、いざという時には適切に対応を。

《質疑応答》

- ・歯が欠けてしまった場合、小さいものでも欠けた部位を探す方がよいか。
⇒欠損部位が極小であれば、欠損部位がなくても処置でききれいに治ることもあるので、必ず見つけなければというものでもない。しかし、大きく欠損した場合はあった方がよい場合もある。抜けてしまった場合は、保存液や牛乳につける・口の中に含む等して歯科医のところへ持っていくといよい。
- ・以前、クラブ活動中の事故で歯が抜け、すぐに抜けた歯を歯医者へ持っていき処置してもらったが上手く戻らなかったことがあった。
⇒歯根膜が死んでいると、処置をしても元に戻らない。歯根膜を保護するために保存液や牛乳等につけることが重要。抜けた歯が地面に落ちて土がついてしまうと水洗いしなければならぬが、水洗いを長くすると歯根膜が死んでしまうので、注意が必要。たくさんの血がついて汚れていても洗い流さなくてもよい。歯根膜の保護が重要。

《教育支援課より》

- ・ケガの発生状況について、場所や時間などでもまとめておくと、今後の改善につながる。
- ・歯（口腔）の外傷が起きた際の対応フローチャートは、学校で今後活用できるとよい。

4 連絡事項

- ・令和6年度キッズウィークについて
- ・コミュニティ・スクールに関する意識調査について
- ・次回学校運営協議会 令和6年1月26日（金）19：00～ PC室